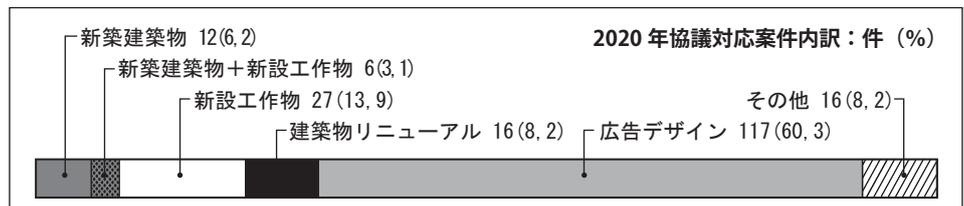


2020年デザイン協議と交通課題の報告 (2020年1月～12月)

銀座街づくり会議では、設立以来毎年、年次報告会を開催し、活動内容とその時々の課題の共有に努めてきました。2020年は前代未聞の災禍により、人に会い、対話を重ねるという銀座街づくりの基本的な営みが制限され、年次報告会や毎年恒例のイベントも開催中止になりました。活動に制約がかかる一方で、6月には銀座街づくり会議15周年の記録として「NEWS LETTERS 2004-2019」を発行、そして「銀座デザインルール」第3版も2021年2月中旬に刊行(予定)、銀座街づくりは動き続けています。これから銀座がどのようなアクションを起こしていくのか、私たちは未来の銀座を担う人々から問われています。2021年もさまざまな課題に対して議論を重ねると同時に、新しい取り組みにもチャレンジしていきます。

■2020年1月～12月デザイン協議案件

2020年の協議件数は、新築建築物(+新設工作物含む)18件、新設工作物27件、建築物リニューアル16件、広告デザイン変更117件、その他相談16件で、計194



件でした。例年の約300件から大きく減少し、コロナ禍による計画の据え置きや変更、中止の影響が鮮明です。特に新築建築物では、用途の再検討や仕上げの低コスト化など、計画変更の相談が続きました。一方、三越銀座店が4丁目交差点側の外装をシャンデリアで装飾されたり、8月には「セイコーミュージアム銀座」がオープンするなど、お買い物という消費だけではない街の楽しさが企業の皆様の努力によって次々と創出されています。この数年で激変した人々の消費行動を鑑みると、今後、商業地のありようも変化を求められることでしょう。それでも銀座は、輝く個店の集合体ならではの価値を有する特別な街であり続けたいと考えます。今後も皆様にご協力いただきながら、1件1件丁寧に対話を重ね、より銀座らしい銀座を目指して新しい街の姿を考えていきます。

■交通課題への対応

余剰駐車場の増加と身障者・荷捌き駐車場附置義務は以前から銀座の大きな課題です。2019年に始まった中央区主催の協議会では、2020年に実態調査を予定していましたが、課題解決に向けた動きが活発化していた矢先のコロナ禍で、人々の移動手段や行動パターンが大きく変化し、実態がつかめない状況になってしまいました。調査は延期になってしまったため、課題解決に必要な整理と議論を適宜行っています。

また、2020年11月に東京都主催の「東京高速道路(KK線)の既存施設のあり方検討会」から、銀座の外周を囲むKK線を歩行者空間として再整備することが都知事あてに提言されました。1966年の開通から半世紀以上が経過し、ウォークブルな街づくりが世界的な潮流となった今、銀座の高速道路も時代に合わせて、人々が集い安らぐ憩いの空間へと姿を変えようとしています。

2021年も歩いて楽しく居心地の良い通り空間を目指して、交通課題に対応していきます。